

健康への

メッセージ

シリーズ 146

気管支の病気

今回は気管支の病気についてのお話です。気管支は12月に述べた上気道の奥の部分です。外部から吸い込んだ空気を肺臓に送る通路です。ただ普通の通路と違って適度に加湿したり、異物を排除する作用もあります。軟骨で枠組みされていますが伸び縮みする通路です。この気管支を舞台として病気が発生することがあります。

最も頻度の多い病気は気管支炎です。急性から慢性の気管支炎まで有ります。炎症の舞台は気管支の表面の粘膜上皮です。細菌やウイルスなどの微生物が外部から進入して発病します。異物による刺激から咳や痰が起こり、炎症の程度により発熱や呼吸困難を伴います。気管支の粘膜面での体外から進入した微生物との戦争です。戦いに敗れると内部の肺臓に進入されて肺炎となり、高齢者や小児では致命的な疾患となります。細菌感染では有効な抗生物質の投与が必要です。

気管支粘膜が各種の原因により部分的に狭窄を起こし、その為内部の気管支が拡張する気管支拡張症や肺炎腫などの慢性的な肺疾患を伴う場合には急性気管支炎が収まった後でも長期に咳や痰、呼吸苦等の症状がみられる慢性的気管支炎になる場合があります。この場合には長期に投薬が必要になります。

慢性的気管支炎が悪化すると肺機能に影響が生じます。肺での酸素の交換が不十分となり、慢性

の呼吸不全になります。常に酸素不足の為に軽い動作でも呼吸困難が生じます。対策は酸素の投与が有効で、入院加療が主体ですが、自宅で酸素を作り吸入するという在宅酸素療法も行われています。

次に多い病気は気管支喘息です。この疾患は気管支を含めた気道に急性の炎症が繰り返して起こることにより気管支の壁にある平滑筋が収縮して起こります。気管支の内腔が狭くなり呼吸困難が起こります。夜間に発作性に起こることが多く救急外来にて治療の必要な場合が多い疾患です。気管支を拡張させる薬や気道の炎症を抑える薬を長期に内服する必要があります。ステロイドホルモンが有効ですが、その副作用が問題となっていました。しかし、最近では吸入型のステロイド剤が用いられており、副作用の軽減とその有効性の高さから喘息発作の減少がみられています。

気管支拡張症は、原因がはっきりしませんが気管支の構造に狭窄と拡張が起こり、拡張した部分に分泌物が増加し、喀痰の増加や咳・咳漱が起こり、発作性の呼吸困難を生じます。気管支喘息は発作のない時は気管支の内部は均一ですが、気管支拡張症では壁の不整が常にみられます。気管支拡張剤などにより治療します。

お知らせ

救急当番日

11日(祝)

午前8時30分～午後5時15分
医師2名が待機。来院の際はお電話を ☎041335

冬の映画会

『ルーニー・テューンズと遊ぼう』

日時 2月19日(日) 午前10時・午後2時
場所 図書館2階ハイビジョンホール
定員 各回120名
入場 整理券(無料)を配布しています。
ご希望の方は図書館カウンターまでお越しください。

金曜映画会

『炎の舞』 (山口百恵主演)

日時 2月24日(金)
午後2時から
場所 図書館2階
ハイビジョンホール
定員 先着100名
※整理券は不要です

ほんの



＝町立図書館＝
☎043311

特別整理期間のお知らせ 2月6日(月)～9日(木)

館内資料の整理点検作業のため休館します。本を返却する場合は、返却ポストをご利用ください(返却ポストは玄関左奥にあります)。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

休館日

2月6日(月)～9日(木)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、3月6日(月)